

既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

資料2-4

(平成21年12月18日開催)

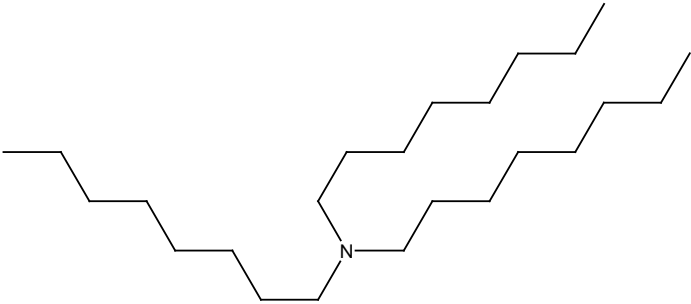
官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定案		頁
			人健康影響	生態影響	
4-96	42240-73-3	2,2',3,3'-テトラクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	二監相当でない		1
2-139 2-143	1116-76-3	トリ-n-オクチルアミン		三監相当	3
4-378	117-80-6	2,3-ジクロロ-1,4-ナフトキノン		三監相当	5

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-96	CAS No.	42240-73-3
判定案	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質に該当するとは判断されない。		
名称 構造式等	<p>名 称：2,2',3,3'-テトラクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン</p> <p>分子量：336.04</p> <p>分子式：C₁₃H₁₀Cl₄N₂</p> <div style="text-align: center;"> </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	淡黄褐色粉粒体		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.6 %。溶媒（脱水 DMSO—溶解）。</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 （本試験）</p> <p>-S9mix 群：39.1 μg/plate (TA100, TA1537 : 19.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 78.1 μg/plate (TA98, TA1535 : 39.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 625 μg/plate (WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)</p> <p>+S9mix 群：1250 μg/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害) 2500 μg/plate (TA1537 : 1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA98, TA1535, WP2uvrA : 全用量で被験物質の析出)</p> <p>（追加試験）</p> <p>-S9mix 群：25.0 μg/plate (TA100, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 50.0 μg/plate (TA98, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.6 %。溶媒（脱水 DMSO—溶解）。CHL/IU.</p> <p>3.360 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。</p> <p>-S9mix 群：0.14mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p> <p>+S9mix 群：0.13mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p> <p>24 時間処理群：0.091mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット CrI : CD (SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5%メチルセルロース水溶液	
	純度	99.6%、99.7%	
	用量	3 用量(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	0 : 1/5♂ (回復期間 13 日目)	

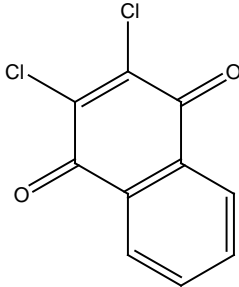
	NOEL	100 mg/kg/day			
	推定根拠	血液生化学的検査(TP↓ : 300 以上♂) 血清蛋白電気泳動検査 (α1 グロブリン分画比・濃度↓ : 300 以上♂) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 300 以上♂♀)			
	他の毒性	血液学的検査 (WBC↑ : 1000♀) 血液生化学的検査(K↑ : 1000♂、TG↑ : 1000♀) 相対重量(肝↑ : 1000♀)			
	回復性	問題なし			
	備考	被験物質は2ロットに分けて搬入されたことから、純度の欄にはそれぞれのロットの純度を記載した。			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S60	0/30	—	(5) μ g/L
	底質	S60	0/24	—	(0.8) μ g/g-dry
	魚類				
	大気				
備考	※1 S61 年版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-139 2-143	CAS No.	1116-76-3
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：トリー n-オクチルアミン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	無色透明液体		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 0.39、1.6、6.3、25、100 % (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 n.d.、n.d.、n.d.、0.00078、0.0052 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 72hEC50 (実測値に基づく) =0.0022 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) <0.00078 mg/L (試験実施者は 0.00020 mg/L と推定した。)		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 5.0、10、20、40、80 % (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.0068、0.0099、0.018、0.038、0.078 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 48hEC50 (実測値に基づく) =0.026 mg/L		
魚類急性 毒性試験	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.8% 試験濃度：設定濃度 26、36、51、71、100 % (100 mg/L で調製した水溶性画分(WSF)) 実測濃度 0.012、0.017、0.023、0.032、0.045 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 120hLC50 (実測値に基づく) >0.045 mg/L (0.045 mg/L 区で 14%の影響が認められた。) 以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.032 mg/L 群：遊泳異常 (24h 2/7) 0.045 mg/L 群：遊泳異常 (24h 3/7)		

生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 120hLC50>0.045 mg/L (溶解限度、14%の影響) であるが、藻類生長阻害試験において 72hEC50=0.0022 mg/L、72hNOEC<0.00078 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.026 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/27	—	(1) μ g/L
	底質	S56	0/27	—	(0.005~0.01) μ g/g-dry
	魚類				
	その他				
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 試験用水溶解度：藻類培地：0.012~0.090 mg/L、脱塩素水道水：0.046~0.16 mg/L (ミジンコ急性遊泳阻害試験)、0.040~0.10 mg/L (魚類急性毒性試験)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-378	CAS No.	117-80-6
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2, 3-ジクロロ-1, 4-ナフトキノン 		
用途	-		
製造及び 輸入数量	-		
外観	黄色粉末		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2006) 培養方式：振とう培養 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.010、0.022、0.048、0.10、0.23、0.50 mg/L 実測濃度 0.010、0.022、0.046、0.090、0.22、0.50 mg/L (試験液調製時) 実測濃度 0.0036、0.0083、0.020、0.050、0.13、0.29 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 100 μL/L 72hEC50 (実測値に基づく) =0.13 mg/L (試験液調製時) 72hNOEC (実測値に基づく) =0.022 mg/L (試験液調製時) (参考) 72hEC50 (実測値に基づく) =0.072 mg/L (時間加重平均値) 72hNOEC (実測値に基づく) =0.0083 mg/L (時間加重平均値)		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24時間後に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.010、0.018、0.032、0.056、0.10 mg/L 実測濃度 0.0082、0.015、0.029、0.051、0.095 mg/L (試験液調製時の算術 平均値) 実測濃度 0.0054、0.012、0.024、0.045、0.085 mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 9.9 μL/L 48hEC50 (実測値に基づく) =0.021 mg/L (試験液調製時の算術平均値) (参考) 48hEC50 (実測値に基づく) =0.017 mg/L (時間加重平均値)		

魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.020、0.036、0.063、0.11、0.20 mg/L 実測濃度 0.018、0.033、0.052、0.097、0.18 mg/L（試験液調製時の算術平均値） 実測濃度 0.0090、0.015、0.011、0.080、0.15 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 9.8 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）=0.031 mg/L（試験液調製時の算術平均値）</p> <p>（参考） 96hLC50（実測値に基づく）=0.010 mg/L（時間加重平均値）</p> <p>①Binominal 法で被験物質濃度の時間加重平均値に基づく毒性値を再計算した。</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 72hEC50=0.13 mg/L、72hNOEC=0.022 mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.021 mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.031 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S57	0/24	—	(0.08~0.15) μ g/L
	底質	S57	0/24	—	(0.006~0.033) μ g/g-dry
	魚類				
	大気				
	その他				
備考	<p>※1 S58 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 試験用水溶解度： 藻類培地：1.9 mg/L、Elendt M4 medium：1.9 mg/L、脱塩素水道水：2.2 mg/L</p>				